

令和4年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 北海道
 農業委員会名： 砂川市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和4年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 R 2 年 7 月 20 日

任期満了年月日 R 5 年 7 月 19 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	13	13
認定農業者	—	9
認定農業者に準ずる者	—	1
女性	—	1
40代以下	—	1
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	—	—	—

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	193
農業経営体数	177

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	373
女性	160
40代以下	41

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	68
基本構想水準到達者	48
認定新規就農者	6
農業参入法人	10
集落営農経営	1
特定農業団体	0
集落営農組織	1

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	畑			計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	878	624	—	—	—	1,500

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

II 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)/(A)
	1,500 ha	1,111.5 ha	74.1 %
課題	農業者が高齢化や経営不安などにより減少する一方、担い手は増加しないことから、遊休農地の発生が懸念されており、農地の有効活用や担い手への円滑な集積を図ることが必要である。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	R5 年度	集積率	80.00 %
今年度の新規集積面積	44.3 ha	農地面積(C)	1,500 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	1,155.8 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	77.1 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	0 ha	0 ha	0 ha
課題	日頃の農地パトロールや農地利用状況調査による現地確認、自ら耕作が難しくなった農地や条件不利地の対策など、遊休農地を発生させないための取り組みを着実に進めていく必要がある。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	0 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	0 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	0 ha
--------------------------	------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	黄区分の遊休農地が発生した場合は、その解消に向けた行程表を策定するため、砂川市や(公財)北海道農業公社などと協議する。
-------------------------	---

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	0 ha
---------------------------	------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和元年度新規参入者		令和2年度新規参入者		令和3年度新規参入者	
	2	経営体	2	経営体	1	経営体
	9.2	ha	6.1	ha	0.2	ha
課題	新規就農には、営農技術の習得をはじめ、農地や資金の確保などの課題がある。新規就農希望者に対して、未経験でも就農できるよう①情報提供・相談段階、②体験・研修段階、③参入準備段階、④定着段階と就農前から就農後の各段階で丁寧に支援していくことが必要である。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
	160.0 ha	75.4 ha	60.7 ha	98.7 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			10.0 ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	8 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	13 人
		農地利用最適化推進委員の人数	— 人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回	
取組時期	取組項目	強化月間の内容
12月～3月	①農地の集積	担い手への農地の集積に向けて、農業者に対する農地利用の意向調査や利用集積のための調整活動などを行う。
4月～11月	②遊休農地の解消	各農業委員による現地確認や農業委員会として実施する農地利用状況調査、農地所有者の利用意向把握などを行う。
2月～3月	③新規参入の促進	砂川市農業担い手育成センターと地域の農業委員が連携して、新規就農希望者に対して農地制度や支援制度、市内農地などの情報提供を行う。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	1 回		
開催時期	令和5年3月	相談会名	北海道新規就農フェア
参加者数	1人	開催場所	札幌市
相談会の内容	新たな農業の担い手確保に向けて、砂川市農業担い手育成センターと連携して「北海道新規就農フェア」に参加し、新規就農希望者に対して関連情報の提供や相談対応を行う。		
開催時期	—	相談会名	—
参加者数	—	開催場所	—
相談会の内容	—		

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)